



北海道大学大学院理学研究科・理学部

広 報

第 14 号
2001年(平成13年)1月

目 次

国立10大学理学部長会議及び	学会賞等の受賞	8
国立大学理学部長会議が開催される	学位授与	8
全道高等学校理科研究発表大会巡検研修の一環として	新任教官紹介	8
理学部の研究室及び総合博物館見学を実施	人事異動	8
白川英樹博士の学術講演会開催について	各種委員会委員	9
研究活動だより(18)	平成13年度科学研究費補助金の申請状況	9
海外からの来訪者	行事予定	10



北海道で発見されたカラフトセセリ

国立10大学理学部長会議及び国立大学理学部長会議が開催される

第94回国立10大学理学部長会議及び第16回国立大学理学部長会議が平成12年10月19、20日の両日、筑波大学及びお茶の水女子大学の当番によりKKRホテル東京で開催されました。

19日に開催された国立10大学理学部長会議では、最初の議題である「国立大学の独立行政法人化について：情勢と理学部が目指す方向」について、情報や意見を交換しました。とくに、京都大学の丸山理学部長からは現在の情勢について詳細な説明がありました。

また、20日に開催された国立大学理学部長会議では、議事に先立ち、出席された文部省高等教育局の永山視学官及び同局木谷課長から、大学を取り巻く情勢等や大学評価について説明がありました。

その他の議題として、リーフレット「What's 理学」の新版について、大学院生の増加に伴う諸問題について、大学院生の国際研究集会等への派遣状況について、大学院入試情報の開示について等が協議されました。

全道高等学校理科研究発表大会 巡検研修の一環として理学部の 研究室及び総合博物館見学を実施

全道高等学校理科研究発表大会巡検研修の一環として、道内から希望した高校生103名が、10月12日（木）に理学部の各研究室と総合博物館を見学しました。

今年度で39回目となる全道高等学校理科研究発表大会は、北海道高等学校文化連盟（高文連）が主催し、全道各地から参加する高校の数49校、参加生徒数400名を数える大きな行事で、今回は10月11日（水）、12日（木）の2日間、札幌市民会館を主会場として実施されました。

当日午後、理学部大会議室に集合した参加生徒は、理学部各学科及び総合博物館の協力のもと、A班52名・B班51名の2班に分かれて、それぞれ各学科の研究室ならびに総合博物館を熱心に見学しました。

日頃なかなか見ることのできない大学の研究室や様々な学術資料に身近に接することが出来たことで、今回の見学は、参加生徒には大変好評のうちに終了しました。

白川英樹博士の学術講演会開催について

このたび、北海道大学では、「導電性ポリマーの発見と開発」により2000年のノーベル化学賞を受賞された白川英樹博士（筑波大学名誉教授）を講師に招いて、2月9日（金）に学術講演会を開催することになりました。

この講演会は、本研究科生物科学専攻(高分子機能学)の長田義仁教授の紹介により、本学主催の行事として実施することになったものです。

当日の演題は「ノーベル賞と物質科学」で、本学教職員・学生のほか、道内大学の教職員や中・高校生を含む市民の方々を対象として行われます。

講演日時及び場所は以下のとおりです。

日時 平成13年2月9日（金）午後4時～午後6時

会場 札幌市民会館大ホール

（札幌市中央区北1条西1丁目）

入場料無料（整理券が必要です）

研究活動だより (18)

官職・氏名 博士課程2年・石川 敦 史
専攻等名 物理学専攻
学会等名 International Conference on Science and
Technology of Synthetic Metals(ICSM 2000)
開催期間 平成12年7月15日～7月21日
開催地 オーストリア・ガスタイン
開催場所 ガスタイン国際会議場
発表テーマ名 (TMTTF)Br におけるSDW 転移の圧力依存性

研究発表の概要

有機導体(TMTSF)X および(TMTTF)X(X=PF₆ , AsF₆ , ClO₄ , Br , etc.)はその擬一次元的な伝導性に起因してスピンパイエルス、スピン密度波、超伝導等の様々な物性を示すことが知られている。その基底状態は物質の違いおよび圧力によって変化し、これらは圧力をパラメータとした統一的な相図によって記述される。今回測定を行った(TMTTF)Br は大気圧において14K 以下で反強磁性相を基底状態に持つ。この反強磁性相では電子は整合スピン密度波状態にある。これに圧力を印可すると0.5GPa 以上で基底状態は不整合スピン密度波相へと変化する。反強磁性相より高温側では系は幅の広い抵抗の極小を100K 前後で示すが、抵抗が極小となる温度は圧力と共に低下し最後には消滅する。この抵抗の極小と反強磁性転移の間の領域では系は電荷局在状態にあると言われており、温度の低下と共に抵抗は上昇する。今回われわれは電荷局在相から反強磁性相への転移のメカニズムを明らかにするために常圧から1.2GPa までの静水圧を加え抵抗測定を行い、その結果を発表した。実験は通常の四端子法で行われ、もともと伝導の大きいa 軸方向の直流抵抗を測定した。

常圧において(TMTTF)Br は14K で反強磁性相へと転移することがNMR 測定から示されている。しかし抵抗測定からは14K でのこの転移に伴う抵抗の変化は見られなかった。これに対して抵抗は18K でキック構造を示し、ここで何らかの物性の変化が起こっていることを示唆した。一方磁化率測定においては19K 付近から磁化率の減少が

始まるが、b 軸方向の磁化率においては反強磁性転移温度の14K 以下でスピフロップが起こっている。またa 軸方向の磁化率が上昇に転じるのも14K である。抵抗のキック構造と磁化率の減少はほぼ同じ温度で起こっており、これらの現象は原因を同じくすると考えられる。

(TMTTF)Br に圧力を印可すると常圧で見られたキック構造は抵抗の温度微分における緩やかなピーク構造に変化する。ピークの温度は圧力とともに上昇し、0.3GPa において23K を示し最大となる。このピークの温度は常圧から0.3GPa までの測定を行った各圧力においてNMR 測定によって報告されている反強磁性転移温度と比べて4 ~ 8K 大きい値を示す。このことからこれらの構造は反強磁性相より高温側に何らかの相転移が存在する可能性を示唆している。常圧における磁化率測定から、この転移は何らかの磁気的な変化を伴うと考えられる。一方0.3GPa 以上の圧力下においてはピーク構造を示す温度は減少を始める。0.5GPa においてピーク温度は19.5K まで低下し、圧力の増加に対するピーク温度の減少の割合は0.5GPa を境に緩やかになる。NMR 測定から0.3GPa 以上の圧力において反強磁性相で不整合SDW の成分が観測されることが報告されており、このことから0.3 ~ 0.5GPa においては反強磁性状態と不整合SDW 状態が共存していると考えられる。これがピーク温度の変化に影響していると思われる。0.5GPa 以上の圧力下では抵抗の微分のピークは不整合SDW 相への転移に対応している。SDW 転移温度の温度依存はフェルミ面のネスティングに基づく平均場理論の描像と良く一致している。

近年電荷局在相における電荷秩序転移の存在が(TMTTF)PF₆ と(TMTTF)AsF₆ におけるNMR 測定から主張されている。この転移においては磁化率の変化は報告されておらず、(TMTTF)Br において反強磁性相より高温側に存在が示唆される新たな相転移はこの電荷局在相内における電荷秩序転移とは異なると考えられる。しかし電荷局在相が反強磁性相から不整合SDW 相への転移を示す圧力において金属状態との境界をもつことから、高温側における電荷秩序はこの新たな相転移と無関係ではないと推察される。そこでこの新たな相転移を説明するモデルと

して、電荷分布の変調が考えられる。NMR 測定から反強状態にあると解釈できる。反強磁性転移より高温で電荷分
 磁性相においては電子スピンの密度がa軸方向に(, 0 , 布のみが先にこのような秩序状態に転移したものがこの新
 , 0)の順に並んだ秩序状態が示唆されている。ここで0 たな相転移である可能性がある。
 はスピン密度の低い状態を表す。これを電荷から見ると単
 純には電荷密度の高いサイトと低いサイトが交互に並んだ (この発表は、株式会社岩崎からの研究助成による)

海外からの来訪者

期間：平成12年10月1日～12月31日

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
(受入れ専攻等名：数学専攻)		
10.10～10.11	ドイツ・カールスルーエ芸術工科大学・主任研究員・Hans Diebner	研究打ち合わせ
10.14～10.19	ポーランド・ワルシャワ大学・助教授・Piotr Rybka	結晶成長の数理と微分方程式に関する研究打ち合わせ
10.23～10.27	南アフリカ共和国・ステレンボッシュ大学・教授・Barry William Green	モジュラ異空間の幾何学の総合的な研究に関する研究打ち合わせ
10.29～11.1	ドイツ・マックスプランク数学研究所・研究員・Gunter Cornelissen	講演「Arithmetic of zeros of Eisenstein series」
11.18～12.2	イギリス・バース大学・講師・King Alastair	講演「Almost Koszul Algebras」
11.22～11.28	シンガポール・シンガポール国立大学・助教授・Chengbo Zhu	講演「Local theta correspondence: An introduction and some recent results」
11.26～12.2	台湾・数学研究院・研究員・Roan Shi-Shyr	講演「Hypersurface Quotient Singularity of Dimension 4」
11.26～12.3	シンガポール・シンガポール国立大学・助教授・Hung Yean Loke	講演「Howe quotients of unitary characters」
12.12～12.18	中国・中国科学院計算数学研究所・教授・陳志明	特異形状を生む拡散効果の非線形解析に関する研究打ち合わせ
12.14～12.17	中国・西安交通大学・教授・李開泰	特異形状を生む拡散効果の非線形解析に関する研究打ち合わせ
(受入れ専攻等名：物理学専攻)		
9.19～9.29	イギリス・エジンバラ大学・助教授・Graeme Ackland	第9回高圧半導体物理国際会議での講演・発表
9.22～9.28	アメリカ・ハーバード大学・教授・William Paul	〃
9.22～9.30	イギリス・サレー大学・研究員・S.Choulis	〃
9.22～10.2	イギリス・サレー大学・研究員・S.J.Sweeney	〃
9.22～10.2	イギリス・サレー大学・研究員・T.J.C.Hosea	〃

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
9.22~10.2	イギリス・クイーンマリーアンドウエストフィ ールドカレッジ大学・講師・J.Downes	第9回高圧半導体物理国際会議での講演・発表
9.23~9.28	イギリス・エジンバラ大学・研究補助員・ Carine Vanpeteghen	〃
9.23~9.28	ドイツ・マックスプランク研究所・研究員・ Ingo Loa	〃
9.23~9.28	デンマーク・オルフス大学・教授・ Niels Christensen	〃
9.23~9.28	スペイン・ラ・ラゲーナ大学・教授・A.Munoz	〃
9.23~9.28	アメリカ・カリフォルニア大学・教授・Peter Yu	〃
9.23~9.28	ポーランド・ワルシャワ大学・助教授・ Dariusz Wasik	〃
9.23~9.28	ロシア・高圧物理学研究所・主任研究員・ E.Dizhur	〃
9.23~9.29	ロシア・ダゲスタン科学センター・主任研究員・ M.I.Daunov	〃
9.23~9.29	ロシア・ダゲスタン科学センター・主任研究員・ A.A.Stepurenko	〃
9.23~9.29	フランス・IPCMS・研究員・Alberto Deberanardi	〃
9.23~9.29	ギリシャ・アリストテレス大学・教授・ Gerasimos Kourouklis	〃
9.23~9.29	ギリシャ・アリストテレス大学・教授・ Sotirios Ves	〃
9.23~9.29	ギリシャ・テッサロニキ大学・主任研究員・ Konstantin Meletov	〃
9.23~9.29	アメリカ・オークランド大学・教授・ Uma Venkateswaran	〃
9.23~9.29	ギリシャ・国立工科大学・研究員・V.Stergiou	〃
9.23~9.29	ギリシャ・国立工科大学・助教授・Yannis Raptis	〃
9.24~9.27	イギリス・オックスフォード大学・講師・ Philip Klipstein	〃
9.24~9.28	韓国・中央大学・教授・Choi In-Hwan	〃
9.24~9.28	アメリカ・ローレンスリバモア国立研究所・ 研究員・Valentin Lota-Herbei	〃
9.24~9.28	中国・中国科学院半導体研究所・教授・ Li Guohua	〃

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
9.24~10.1	フランス・ピエール・エ・マリー・キュリー大学・ 助教授・Stefan Klotz	第9回高圧半導体物理国際会議での講演・発表
9.24~10.1	イスラエル・テルアビブ大学・教授・ Moshe Paz-Pasternak	〃
9.24~10.1	イスラエル・テルアビブ大学・上級研究員・ Rozenberg Grecorey	〃
9.24~10.1	スウェーデン・ウメオ大学・教授・ Bertil Sundqvist	〃
9.24~9.28	デンマーク・オルフス大学・准教授・ Axel Svane	〃
9.24~9.28	ドイツ・キール大学・研究員・L.Ehm	〃
9.24~9.28	ドイツ・キール大学・研究員・K.Knorr	〃
9.24~9.28	ドイツ・マックスプランク研究所・研究員・ K.Syassen	〃
9.24~9.29	ドイツ・ベルリン工科大学・教授・A.Goni	〃
9.24~10.1	ドイツ・フィリップス大学・研究員・P.J.Klar	〃
9.24~10.1	ドイツ・マックスプランク研究所・研究員・ H.F.Manjon	〃
9.24~9.28	アメリカ・ニューヨーク州立大学・教授・ Bernard Weinstein	〃
9.24~9.28	アメリカ・国立リニューラルエネルギー研究所・ 研究員・Alex Zunger	〃
9.24~9.28	アメリカ・ローレンスバークレイ国立研究所・ 研究員・Wladyslaw Walukiewicz	〃
9.24~9.28	イギリス・サレー大学・教授・Eoin O'Reilly	〃
9.24~9.28	イギリス・サレー大学・教授・Alf Adams	〃
9.24~9.28	イギリス・ハル大学・講師・Igor Itskevitch	〃
9.24~9.28	イギリス・ロンドン大学・助手・Andrew Prins	〃
9.24~9.28	フランス・モンペリエ大学・上級研究員・ Sylvie Contreras	〃
9.24~9.28	フランス・モンペリエ大学・助教授・ Leshek Konczewicz	〃
9.24~9.29	ロシア・ロシア科学アカデミー金属物理学研究 所・研究員・Popova Svetlana	〃
9.24~9.29	ロシア・ロシア科学アカデミー金属物理学研究 所・研究員・V.Shchennikov	〃

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
9.24~10.1	ロシア・イオフェ物理工学研究所・研究員・ S.A.Obukhov	第9回高圧半導体物理国際会議での講演・発表
9.24~9.30	トルコ・イスタンブール工科大学・准教授・ Hilmi Ünlü	”
9.24~9.29	インド・インド科学研究所・教授・Ajay K.Sood	”
10.16~10.20	アメリカ・ロスアラモス研究所・教授・ Alexander V.Balatsky	高温超伝導に関する理論のレビューのため
10.16~10.18	フランス・グルノーブル国立極低温研究所・助手・ Marc-Henri Julien	「核磁気共鳴法によるペロフカイト型チタン化合物のモット転移近傍の金属相の研究」に関するレビューのため
(受入れ専攻等名：化学専攻)		
11.13~11.13	中国・中国科学院大連化学研究所・教授・Can Li	表敬訪問
(受入れ専攻等名：生物科学専攻)		
11.12~11.21	ロシア・ロシア科学アカデミータンパク質研究所・主任研究員・Maria Garber	蛋白質合成装置リボソームの構造研究についての研究討議及び共同研究
12.3~12.9	アメリカ・ノースウェスト水産研究センター・研究員・Andrew H.Dittman	神経ホルモンによる産卵回遊制御についての情報交換
12.19~12.21	ハンガリー・ブダペスト工科大学・教授・ Miklos Zrinyi	学位審査のため
(受入れ専攻等名：地球惑星科学専攻)		
10.22~10.28	バングラディッシュ・バングラディッシュ大学・助教授・Md.Nazrul Islam	衛星データ解析方法の修得
11.14~11.15	アメリカ・海洋気象庁国立中小規模擾乱研究所・研究員・Richard J.Doviak	研究打ち合わせ
11.29~12.2	オーストラリア・スクリップス海洋研究所・研究員・W.R.Young	地球流体乱流、気候モデルに関する研究連絡・セミナー
11.29~12.2	オーストラリア・スクリップス海洋研究所・研究員・P.Cessi	地球流体乱流、気候モデルに関する研究連絡・セミナー

学会賞等の受賞

化学専攻 古月文志助手は、静電型イオンクロマトグラフィーの開発に関する研究により、平成12年11月15日、日本分析学会から日本分析学会イオンクロマトグラフィー研究懇談会技術賞を受賞されました。

地球惑星科学専攻 藤野清志教授は、高温高压下における鉱物の構造と相変態およびレオロジーに関する研究により、平成12年11月3日、日本鉱物学会から平成12年度日本鉱物学会賞を受賞されました。

学位授与

平成12年12月25日学位授与者(2名)

(課程博士)

長谷川 裕 之(化学専攻)

Molecular conductors based on axially-substituted cobalt-phthalocyanines. (主査: 稲辺 保教授)

田 中 博(生物科学専攻)

Studies on enzymes which are present in human intestines. (主査: 鈴木範男教授)

新任教官紹介

丸 田 悟 朗(化学専攻生命分子化学講座助手)

(平成12年11月16日採用)



最終学歴: 平成11年3月大阪大学大学院理学研究科化学専攻博士後期課程修了、学位: 博士(理学) 略歴: 平成11年3月高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所講師(中核的研究機関研究員) 専門分野: 物性物理化学

人事異動

平成12年10月16日付け発令

(育児休業)

育児休業の期間は平成13年8月18日まで

化学専攻事務室事務官

西 村 公 子

(臨時的任用)

臨時的任用の期間は平成13年8月18日まで

化学専攻事務室事務員

渡 度 祐 子

平成12年10月20日付け発令

(任期満了)

附属臨海実験所事務補佐員

小 林 道 子

平成12年10月31日付け発令

(任期満了)

附属臨海実験所臨時用務員

齋 藤 祐 子

平成12年11月1日付け発令

(転出)

北見工業大学工学部教授へ

生物科学専攻生体高分子設計学講座助教授

吉 田 孝

平成12年11月16日付け発令

(採用)

化学専攻生命分子化学講座助手

丸 田 悟 朗

平成12年11月30日付け発令

(辞職)

附属地震火山研究観測センター事務補助員

池 田 あゆみ

平成12年12月1日付け発令

(採用)

附属地震火山研究観測センター事務補助員

鈴 木 美 和

平成12年12月18日付け発令

(雇用契約)

附属地震火山研究観測センター(共通(客員)分野)

外国人研究員(客員教授)

雇用期間は平成13年3月31日まで

GUERASSIMENKO Mikhail

平成13年1月1日付け発令

(転出)

名古屋大学大気水圏科学研究所教授へ

地球惑星科学専攻地球惑星流体科学講座助教授

上 田 博

京都大学大学院理学研究科助教授へ

化学専攻物性解析化学講座講師

大 井 貴 史

触媒化学研究センター助教授へ

化学専攻分子変換化学講座助手

叶

深

北方生物圏フィールド科学センター設置準備検討小委員会

人事検討部会

(12.10.11 ~ 設置準備委員会設置まで)

各種委員会委員

生物科学専攻

講師 鈴木 範 男

全学関係

北方生物圏フィールド科学センター設置準備検討小委員会

管理運営体制検討部会

(12.10.11 ~ 設置準備委員会設置まで)

生物科学専攻

教授 浦 野 明 央

臨海実験所

教授 向 井 宏

海藻研究施設

教授 市 村 輝 宣

平成13年度科学研究費補助金申請件数(大学院理学研究科・理学部)

種 目	平成13年度			平成12年度			前年比増減			
	新規	継続	計	新規	継続	計	新規	継続	計	
特別推進研究	2	1	3	3	2	5	- 1	- 1	- 2	
特定領域研究(A)	23	7	30	46	2	48	- 23	5	- 18	
特定領域研究(B)	-	4	4	-	3	3	-	2	2	
特定領域研究(C)	9	-	9	3	-	3	6	-	6	
地域連携研究費	-	1	1	1	-	1	- 1	+ 1	± 0	
特定研究促進費	-	-	-	1	-	1	- 1	± 0	- 1	
基盤研究(A)	一般	9	10	19	11	11	22	- 2	- 1	- 3
	展開	5	0	5	2	1	3	3	- 1	2
	海外	2	2	4	3	2	5	- 1	± 0	- 1
	計	16	12	28	16	14	30	0	- 2	- 2
基盤研究(B)	一般	39	11	50	40	14	54	- 1	- 3	- 4
	展開	14	3	17	20	6	26	- 6	- 3	- 9
	海外	4	2	6	3	1	4	1	1	2
	計	57	16	73	63	21	84	- 8	- 5	- 13
基盤研究(C)	一般	56	21	77	50	19	69	6	2	8
	展開	1	0	1	3	0	3	- 2	± 0	- 2
	海外	7	-	7	10	-	10	- 3	-	- 3
	計	64	21	85	63	19	82	- 5	± 0	- 5
萌芽の研究	47	6	53	45	6	51	2	± 0	2	
奨励研究(A)	28	12	40	28	18	46	± 0	- 6	- 6	
合 計	246	80	326	269	85	354	- 23	- 5	- 28	

行事予定

月	日	曜	事 項
1	4	木	新年交礼会 11:00
	5	金	学位申請(1月付託)締切
	12	金	専攻長・学科長会議 13:30
	9	火	平成13年度第1学期授業時間割提出締切
	18	木	研究科教授会 13:30
	19	金	平成13年度授業科目シラバス原稿提出締切
2	20	土	大学入試センター試験(～21日)
	22	月	修士(博士前期)課程・博士後期課程二次願書受付(～26日)
	26	金	学位申請(2月付託)締切
	2	金	専攻長・学科長会議 13:30
	5	月	全学教育部第2学期定期試験(～16日)
	9	金	研究科教授会 10:00
3	9	金	臨時学部教授会
	13	火	修士(博士前期)課程・博士後期課程第二次入学試験(～14日)
	14	水	学位申請(3月付託)締切
	14	水	博士学位審査報告関係書類提出締切(3月審査報告分)
	16	金	修士論文題目提出締切
	16	金	卒業・修了予定者の成績提出締切
	25	日	北大第二次入学試験(前期日程)
	1	木	春季休業(～4月6日)
	1	木	専攻長・学科長会議 13:30
1	木	研究生・聴講生・科目等履修生の願書受付(～7日)	
4	2	金	研究科教授会 13:30
	2	金	学部教授会 15:30
	12	月	北大第二次入学試験(後期日程)
	13	火	専攻長・学科長会議
	16	金	修士1年次及び学部平成6年度以前入学者の成績提出締切
	23	金	学位記授与式
4	6	金	平成12年度第2学期学部専門科目成績提出締切 12:00
	9	月	平成13年度第1学期授業開始

編集後記

理学部広報14号をお届けします。

今号の表紙には、一昨年北海道に突然現れた蝶カラフトセセリの姿を示します。カラフトセセリは本来、サハリンを含むシベリア大陸・北米に広く分布する小型の蝶で、幼虫はオオアワガエリやカモガヤなどの牧草を食します。この蝶が1999年の夏に本来いないはずの北海道滝上町で多数発見され話題になりました。2000年の夏には多くの蝶愛好家たちが滝上町周辺に集散しました。実は私はこのことを全く知らず、教官・学生らとともに海洋科学技術センター海底下深部構造フロンティアの地殻構造探査の観測のために滝上町から斜里町にかけて地震計を75点設置してこのことを知り、非常に驚きました。なぜこの蝶が突然現れたのかはいろいろの方が調査中ですがわかっていません。可能性が高い説としては、人為的な放蝶、牧草とともに輸入された、などが考えられます。この蝶は飛翔力が弱いので大陸やサハリンから夏の南風に逆らって北海道まで自力で飛んでくることはできないでしょう。人為的な放蝶は過去に例があり、韓国に生息しているホソオチョウが山梨県に放たれ、現在は関西の一部にも生息しています。思い出すのはオオモンシロチョウの例です。ヨーロッパのオオモンシロチョウは非常に強靱な飛翔力を持っていて300kmくらいは一気に飛ぶことがマーキング追跡などの調査でわかっていました。この蝶は1993年にはナホトカで生息が確認され、1995年には北海道岩内町に自力で上陸し、現在北海道東部の一部を除き北海道のほとんどの地域にまで拡散しています。また東北地方や対馬でも採集されました。北海道ではこの5年間に2種類の蝶が増えたこととなります。それ自体蝶マニアにとっては面白いことですが、このような現象は実は“氷山の一角”ではないかと思われます。人間の自然環境に与える急速な擾乱がある特定の種類にだけ都合の良い環境と、進化のチャンスを与えているのです。

(森谷武男(地球惑星科学専攻)記)

北海道大学大学院理学研究科・理学部広報
第14号 2001年(平成13年)1月16日発行
北海道大学大学院理学研究科・理学部広報委員会
印刷・製本 興国印刷株式会社